

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

埼玉県 川越市立富士見中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日：平成30年11月5日（月）

■ク ラ ス：2年1組（35名）、2年2組（35名）

■オリンピアン：湯元 進一 先生（レスリング）【出場オリンピック／ロンドン大会】



■授業のながれ：運動の時間（1時限、3時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



- ・自己紹介の後、3つのオリンピックバリューについて「エクセレンス＝卓越、優れていること、素晴らしいこと」「フレンドシップ＝友情、チームワーク、協力すること」「リスペクト＝尊敬、尊重、相手を敬うこと」と説明。
- ・準備体操として、レスリングの俊敏性につながる動きや、男子同士、女子同士で2人1組となり、膝タッチゲーム、しっぽ取りゲームを実施。

3. 主運動



- ・「エクセレンス＝全力で取り組むこと」「フレンドシップ＝チームワーク」「リスペクト＝ルールを守ること」と関連づけて考えながら取り組むように伝え、班毎の対抗戦でしっぽ取りゲームを実施。バスケットボールコート2面に3班ずつに分かれ、対戦し、仲間以外のしっぽを取ったら、自陣のフラフープ内にしっぽを置く。自分のしっぽが取られてしまった場合は、自陣のフラフープ内に片足を入れ待機。同じ班の仲間がしっぽを持ってくる、または自陣にしっぽがある場合はそのしっぽを着けて、再スタート。しっぽの色は関係ないものとし、各回終了時点で持っているしっぽの数を数え、全3回の合計本数を競った。

4. まとめ



- ・次の座学の時間は、運動の時間の取り組みを振り返りながら、「全力で取り組む」「チームワーク」「ルールを守る」の3つの言葉がオリンピックバリューとどのように関連しているのかを考え、発表してもらおうと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・オリンピックバリューという言葉聞いたことがあるかを生徒に尋ね、オリンピックの価値について伝えていきたいと授業の目的を確認。湯元先生は失敗から学び、諦めずに努力を重ねた結果、オリンピックに出場することができたことを伝える。
- ・オリンピックシンボルに触れ、5つの輪が5大陸を表していることやクーベルタンが近代オリンピックを創設した人であることを紹介。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：運動の時間を振り返り、感じたことや頑張ったことをオリンピックバリューにつなげて考えてみよう。
- 発表：作戦タイムで助言し合う、感動は挑戦から(エクセレンス)、仲間と協力する、仲間を信頼する、人の意見を聞く(フレンドシップ)思いやりを持つ、ルールを守らないと相手も楽しめない(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、皆の日常生活の中にも見出すことができる。勉強や部活動で中途半端に手を抜いてしまうと達成感は得られず、全力で努力するからこそ喜びを得ることができる。
- ・最後にロンドン大会のメダルを披露し、表彰台でメダルを掛けてもらった時は凄く重く感じたが、何よりも支えてくれた家族やコーチ、トレーナー、仲間等、たくさんの人にメダルを触ってもらうことができ、このために努力をしてきた、恩返しをすることができたと感じると同時に「ありがとうございます」という感謝の言葉、気持ちを伝えられたことがよかったと話し、授業終了。

実施内容

■期 日：平成30年11月6日（火）

■ク ラ ス：2年3組（35名）、2年4組（35名）

■オリンピアン：足立 夢実 先生（水泳・シンクロナイズドスイミング 現:水泳・アーティスティックスイミング）【出場オリンピック/ロンドン大会】



■授業のながれ：運動の時間（1時限、3時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、2時間を通して皆とオリンピックについて学びたいと授業の目的を確認。オリンピックバリューについては、座学の時間に詳しく説明すると伝え、準備体操としてシンクロナイズドスイミングになぞらえて音楽に合わせてながらダイナミックストレッチを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



・ボール送りリレー、ボール転がしリレー、ドリブルリレーの三種混合リレーを全3回実施。各回の前に作戦タイムを設ける。6班対抗とし、3種目が終わり、班の全員が座ったところでゴールとした。
・順位をつけたが、カーブを丁寧に回っていた班や、特によく声が出ていた班、最初の1回目からルールを守ることを徹底してくれていた班等、それぞれの班の特徴がよく出ていたと話し、スポーツ以外の場面でもルールを守ることは大切であり、今後もルールの範囲内で皆で協力・相談しながらベストを尽くしてほしいと伝えた。

4. まとめ



・座学の時間はオリンピックバリューについて詳しく学んでいきたいと冒頭で伝えたことを改めて予告。汗を拭き、水分を補給する等、しっかりと準備をした上で座学の授業を受けてほしいと話し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・自己紹介の後、スライドを用いながら競技の説明に移る。
- ・シンクロナイズドスイミングは水中で音楽に合わせて様々な動きを行い、同調性や技術性を競うスポーツであること、水中にもスピーカーが設置されていること、ロンドン大会の会場や聖火、ジャンプの技、演技前後の写真等を紹介した後、映像を見せながら、シンクロナイズドスイミングに少しでも興味を持ってくれたら嬉しいと話す。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：3年生になることへの心構えをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。(気を付けたいこと、意識したいこと、頑張りたいこと等)
- 発表：部活や勉強、行事に全力で取り組む、自主的、自律的な行動をする(エクセレンス)、後輩の手本となれるような先輩になる、思いやりを持ち、周りの人に優しくする、仲間を大切に(フレンドシップ)、責任感を持つ、学校の模範となり、伝統を受け継ぐ(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・オリンピックバリューは、オリンピックだけのものではなく、皆の生活の中に溢れているので日常生活の中でも是非活かしてほしい。
- ・東京2020大会の時、皆が高校生になっているが、「観る、する、支える」等多くの視点から関わることができるため、どのような関わり方でも良いので意欲的に関わってくれたら嬉しいと伝え、授業終了。

■ 集合写真
2年1組



2年2組





■ 集合写真
2年3組



2年4組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



■ 修了書贈呈

